

令和元年9月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

証明書コンビニ交付サービス、地域でつくるみんなの元気交流大会の開催、久慈秋まつり、大森良三絵画展について市長が説明したほか、9月の行事予定、イベント情報などについて報道機関にお知らせしました。

□ 記者との質疑応答

記者：べっぴんの湯が休止されるといふことで大変厳しい状況である。今後の再開への思いなど伺いたい。

市：一番の売り物である温泉の出量が極端に少なくなっている。施設の老朽化も進んでおり、今後、施設をどのように利活用するか、外部の専門家も入れて早めに方向性を出したい。

ポンプ関係も不具合が多く修繕を続けてきたが、施設は改修すべきところは改修する。温泉が従来のおり復活できることが第一だが、温泉については専門家の意見を伺い検討したい。山根地区の拠点施設であり、再開に向けて取り組みたい。

記者：地下からまた温泉が湧出できればいいが、仮に出なくても、施設は何らかの形で活用していくか。

市：お風呂があるので、温泉が出なければ、別の魅力でアピールできる施設。最近では赤字であったことも事実であり、管理などを考えていきたい。

記者：同じ場所で再開するか。

市：建物はあるので、同じ場所だと考えている。良質の源泉を見つけることは難しいが、現在の場所で源泉が出るのが理想ではある。

記者：外部の専門家も入れて検討するということが、いつ頃からか。

市：早期を考えている。従業員も解雇しなければならない状況であり、施設は地域振興も担っており、早めに検討を進める。

記者：現在の源泉から湧出できない場合、新たなボーリングも考えているか。

市：選択肢の一つである。

記者：地元からは再開する判断は早めに教えてほしいという声があるようだが、ボーリングを行う判断は年内になるか。

市：様々な業者からの意見も伺って決めたい。これまで以上に利用いただける施設にしていきたい。